

OfByForコラム 地域の 地域による 地域のための Something NEWS

第⑤回

元総理・小泉純一郎氏の 「我悔いる、ゆえに我あり」

一般社団法人 光楓座
一般社団法人 e f c o . j p p

代表理事

佐藤建吉

▼元総理の講演会

元総理大臣の小泉純一郎氏の「原発ゼロ」に向けた活動を紹介します。2017年3月2日に、福島県郡山市で開催された同氏の講演会に、千葉県大多喜町から参加した。

会場は郡山市民文化会館では、途切れなく到着する聴衆で、定員2000人の大ホールは一杯となった。入場整理券を忘れたため会場に入場できず、5階の会議室のスクリーンで講演風景を視聴することになった。この講演会は、小泉氏の活動に共感する「下村満子の生き方塾」が主催した。

▼小泉氏の「原発ゼロ」活動

縁がある。以来、昨年9月の福島市での講演会、今年2月に千葉市で開催された新年会でもお会いした。こうして筆者も、ソーラーシェアリングの実施に向け、業者と打合せ中である。

違いを自覚したという。小泉氏は、その後、黙って見過ごすわけにはいかず、「原発ゼロ」の活動を始めた。衆目を集めたのは2014年1月に行われた東京都知事選挙で、元総理の細川護熙氏の応援であった。その時の小泉氏は、現役時のままの迫力が印象に残る。

2016年5月には、吉原毅氏らと米海軍の基地サンディエゴを訪問した。3・11後、軍令で救援（これを「トマダチ作戦」という）に参加した兵士たちが、放射能被ばくにより7名が死亡したほか、多数の被ばく者が出て、兵士ら400名が原告として東京電力を訴追した。

現代社会は、科学技術を適用し、便利で快適な暮らしとともに、社会変革も作り出している。科学技術は、もはや空気と同じように環境となっており、日常は気が付かないが、不可欠で強大な存在となっている。

現代社会は、科学技術を適用し、便利で快適な暮らしとともに、社会変革も作り出している。科学技術は、もはや空気と同じように環境となっており、日常は気が付かないが、不可欠で強大な存在となっている。

こうして、巨大システムに支配され、これに依存した「技術連関」社会では、これまでの個人向けの哲学や倫理とは別に、団体や集団のための哲学や倫理としての「エコ・エティカ」が、合意形成や判断に必須となる。今道氏は、5年前に没したが、その先見性は、『未来を創る倫理学 エコ・エティカ』等の著書で知ることができる。

今道氏は、この状況を「技術連関」社会と呼び、こうした現代社会で必要とされる倫理観を「エコ・エティカ」として提唱した。

すると、責任は不明となる。責任の取り方には、委員長の降格、委員の総辞任、委員会の権限縮小などが考えられているが、それを選んだ国民や社会の責任ともなり、責任は空中分解する。

小泉氏は、著書「黙って寝てはいられない」で、「原発ゼロ」に取り組む勇気につけに、『論語』の「過ちては改むるに憚ること勿れ」を挙げている。また、『憲政の神髄』といわれた尾崎行雄の「人生の本舞台は常に将来に在り」を挙げ、齢七十に到達した今でも不断の決意と挑戦の思いを固くしている。私が、あえて小泉氏に贈るのは、「我悔いる、ゆえに我あり」である。

小泉純一郎氏近影



この「原発ゼロ」の活動は、元総理の立場としては特異であり、総理時代とは逆行し、「無責任」な行動と批判する人が少な

小泉氏の行為は、社会正義に基づいているが、

それは公平が保たれている社会を前提としている。今道氏は「正義は、正しく責任を取ることである」とも述べている。小泉氏の行動は、今道氏の「エコ・エティカ」での考察に合致している。

霧消する。

講演会のパンフレット。当日は会場に入りきれない来場者で溢れた。

小泉純一郎氏 特別講演会
「日本の歩むべき道」
3月2日 木 午後2時～4時
郡山市民文化センター（大ホール）

進行プログラム
● 主催者あいさつ (14:00-14:15)
「下村満子の生き方塾」塾長 下村 満子
● ご協賛あいさつ (14:15-14:30)
城南信用金庫 相談役 吉原 毅
● 特別講演 (14:30-15:50)
「日本の歩むべき道」